

龍谷大学における「仏教 SDGs」を通じた成果と課題（2021 年度）

龍谷大学では、2020 年度から 2039 年度を計画期間として展開する将来計画「龍谷大学基本構想 400」における将来ビジョンとして、「『まごころ～Magokoro～』ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる『壁』や『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる」旨を掲げています。これは、まさに、持続可能な社会の実現を希求する計画といえます。

また、浄土真宗の精神を建学の精神とする本学では、阿弥陀仏が「すべての生きとし生けるものを決して見捨てない」と誓われた心（摂取不捨）と、SDGs が掲げる「誰一人取り残さない」という理念とに共通点を見出し、この仏教的な視点を通して大学構成員自らの自省と気づきを促す「仏教 SDGs」を掲げ、SDGs に資する諸事業を様々に展開しています。

これらを踏まえ、龍谷大学ならではのアプローチで SDGs の達成に貢献することを誓い、2022 年 2 月には、「龍谷大学 SDGs 宣言」を発出するに至りました。

なお、ここでは「環境」「経済」「社会」及び「パートナーシップ」の 4 つの区分に分類し、主な活動を通じた成果と課題をまとめました。各取組の詳細については「龍谷大学の SDGs 取組実績」をご参照ください。

龍谷大学基本構想 400 – 2039 年創立 400 周年を超えた未来に向けて –

<https://www.ryukoku.ac.jp/400plan/>

龍谷大学 SDGs 宣言

<https://www.ryukoku.ac.jp/sdgs/about/>

仏教 SDGs について

<https://retaction-ryukoku.com/concept>

龍谷大学の SDGs 取組実績

<https://www.ryukoku.ac.jp/sdgs/goal/>

環境分野



私たちの「社会」・「経済」は、自然資本の上に成り立っています。このことから、龍谷大学では「環境」を SDGs 達成のための基盤的要素として捉えています。

近年、気候変動への対応が声高に叫ばれる中、本学では「カーボンニュートラル宣言」を発出するとともに（2022年1月27日発出）、2021年度に「エコキャンパス実現に向けた基本方針」を改訂し、中長期目標として「2039年（遅くとも2050年）までに使用電力エネルギーを100%再生可能エネルギーに転換する」ことなどを掲げました。

また、2022年3月には、農学部と先端理工学部による「低炭素社会の実現に向けた食料システム構築のための「アグリDX」人材の育成」事業が文部科学省の「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に採択されました。

今後は、深草キャンパス施設整備計画にもとづき、キャンパスの省エネルギー化をさらに進めることで、ゼロカーボンキャンパスを実現させるための取組を推進します。あわせて、本学の特色ある教育・研究活動を通じて、カーボンニュートラルの担い手となる人材を育成します。

カーボンニュートラル宣言

https://www.ryukoku.ac.jp/about/activity/global_warming/carbon_neutrality/index.html

エコキャンパス実現に向けた方針

https://www.ryukoku.ac.jp/about/activity/global_warming/policy/

アグリ DX 人材育成事業

<https://www.agr.ryukoku.ac.jp/sdx/>